

株主のみなさまへ

第8期 株主通信

2014年4月1日から2015年3月31日まで



ダイキョーニシカワ株式会社

証券コード：4246



ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
このたび、平成27年6月26日付で代表取締役社長に就任いたしました。
これから、当社グループの一層の発展のため、微力ながら専心努力してまいりますので、株主の皆様には引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月

代表取締役社長 内田 成明

当期の業績について

当連結会計年度（2014年4月1日から2015年3月31日まで）の連結業績は、売上高につきましては、主要販売先への売上増に加え、新製品を量産する国内子会社及びメキシコ子会社の売上寄与等により、前連結会計年度に比べ25,820百万円（23.8%）増加の134,343百万円となりました。

一方、利益面につきましては、新製品の量産にかかる費用や、新規事業拠点の本格稼働による費用の増加等がありましたが、国内外での増収効果やコスト低減活動等により、営業利益は前連結会計年度に比べ4,420百万円（55.7%）増加の12,353百万円となりました。経常利益につきましては持分法投資損失の発生等がありましたが、前連結会計年度に比べ2,935百万円（37.2%）増加の10,831百万円となりました。当期純利益は前連結会計年度に比べ2,591百万円（59.7%）増加の6,935百万円となりました。

来期の業績の見通しについて

自動車業界では、国内生産台数の大幅な増加は見込めない状況にあります。海外においては北米での生産台数は回復傾向にありますが、中国やアセアンでの先行きは不透明な状況であることから、当社を取り巻く事業環境は依然として厳しい状況が続くと予測いたします。

このような状況の中、当社は国内・メキシコの事業拠点での新製品の量産に続き、インドネシアの事業拠点での量産・販売活動を本格的に開始いたします。そのため減価償却費の負担増もありますが、世界4地域に展開した事業拠点の成長基盤を固め、更なる収益力の強化に向けた取り組みを推進してまいります。

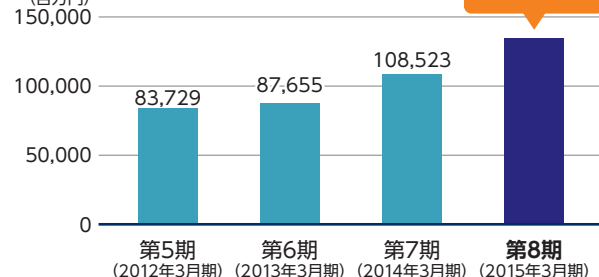
なお、来期（2016年3月期）の業績につきましては、売上高は140,000百万円（前期比4.2%増）、営業利益は11,900百万円（前期比3.7%減）、経常利益は11,700百万円（前期比8.0%増）、当期純利益は7,600百万円（前期比9.6%増）を見込んでおります。

連結決算ハイライト

Consolidated Financial Highlights

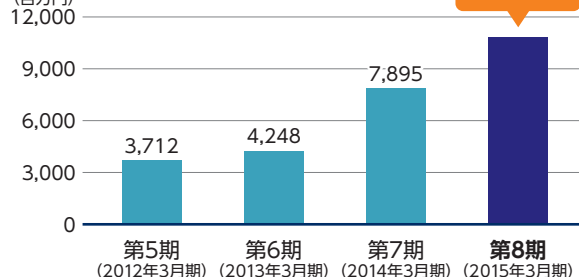
売上高

(百万円)



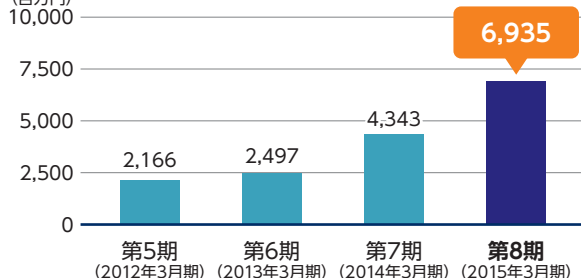
経常利益

(百万円)



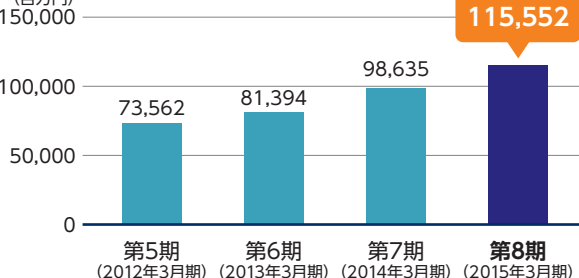
当期純利益

(百万円)



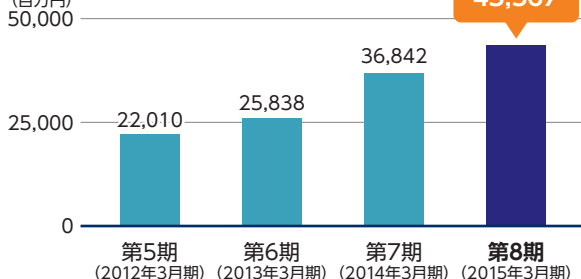
総資産

(百万円)



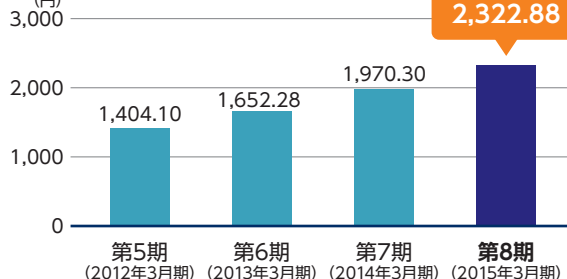
純資産

(百万円)



1株当たり純資産

(円)



事業のご紹介

Introduction of business

ダイキョーニシカワは、国内の各自動車メーカー向け樹脂部品の分野で、材料ブレンド開発から、製品開発、設計、製造までを手がける総合プラスチックメーカーです。

自動車外装・外板部品



- バンパー
- フェンダー
- フード
- バックドア
- ルーフ
- ルーフラック
- スポイラー
- ラジエーターグリル
- リアガーニッシュ
- サイドステップモール
- 等

自動車エンジンルーム部品



- オイルストレーナー
- エンジンカバー
- インテークマニホールド
- シュラウドパネル
- シリンダーヘッドカバー
- パワステタンク
- 等

自動車内装部品

- インストルメントパネル
- コンソールボックス
- センターモジュール
- チェンジノブ
- スイッチパネル
- インジケータパネル
- アシストグリップ
- ピラートリム
- ドアトリム
- トランクサイドトリム
- 等



住宅関連

バスユニット部材

- バスタブ
- カウンター
- ミラーパネル
- 洗い場



洗面・キッチン部材

- 人造大理石キッチンカウンター
- ガラス繊維レス人造大理石製品

トイレタリー部材

- 便座

自動車の外装部品

バンパー



当社では、これまで培ってきた高い技術力、多彩な生産設備により、自動車に関わるあらゆる樹脂部品を提供しています。

今回は当社の主要製品のひとつである、外装部品のバンパーをご紹介します。

バンパーとは？

衝突時の衝撃を吸収・緩和し、車体の損傷を防ぐために、自動車の前端と後端に取り付ける緩衝装置です。1980年代頃までは金属製が一般的でしたが、樹脂加工技術の進歩に伴い、軽くてデザインの自由度が高いという樹脂の特性を活かしたバンパーが増え、**グリル**などを一体にするバンパーのモジュール化が進みました。樹脂製になったことにより、万が一の時の歩行者保護性能も向上しています。

Q&A

グリルとは？

ラジエーター、クーラーコンデンサー、オイルクーラーなど、エンジンルーム補機類の冷却開口前面に装着された格子状の部品のこと。

当社の樹脂製バンパーの歴史は古く、強度は保ったまま、どこまで薄く、そして軽くできるかを追求し続けてまいりました。10年前と現在の製品を比べてみると、薄さも軽さも格段の進歩を遂げています。また、現在は様々な加飾が施され、付加価値も高まっています。

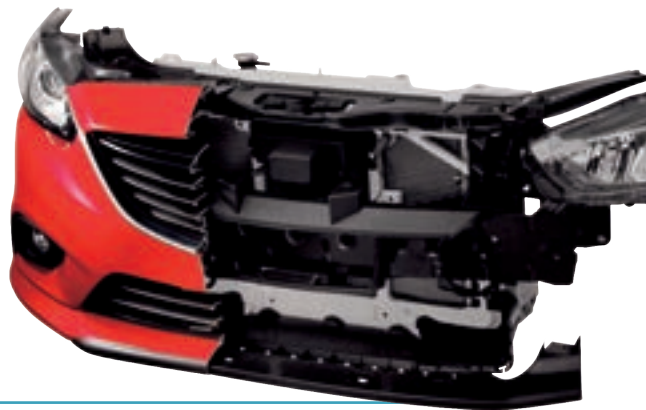


約10年前の当社製バンパー



現在の当社製バンパー

10年前に比べて、基本板厚は20.0%、重量は12.5%低減しています。



この工場で作っています



【西浦工場概要】

所在地：山口県防府市西浦888-1
 主要生産品目：バンパー
 竣工稼働：1982年
 従業員数：173名
 敷地面積：18,000 m²

西浦工場は、日本三天神の一つである防府天満宮で有名な山口県防府市にあります。

西浦工場の特色は、マツダ株式会社防府工場の敷地内にあることです。外装部品のバンパーに特化した工場、防府工場で生産されるアクセラ、アテンザ、デミオのバンパーを生産し、納品しています。

特集 | プラスチックのおはなし

ダイキョーニシカワの強み

ダイキョーニシカワは、開発から品質保証までを手掛ける提案型の総合プラスチックメーカーです。

プラスチックの可能性や、当社の多彩な技術、開発にかける熱い思いと情熱、ダイキョーニシカワのSpiritをお伝えします。

第2回 | 材料の内製化

プラスチックにも長所と短所があります。長所は軽くて強い、そして錆びないことです。一方、短所は鉄に比べて熱による伸縮が大きいことや、強度・剛性が劣るなどが挙げられます。この短所を補い、製品の性能を満足させるために、添加剤やガラス繊維などをブレンドします。通常、この工程は材料メーカーが行い、製造メーカーが成形するという形が一般的ですが、ダイキョーニシカワでは材料のブレンド工程も社内に取り込み、成形まで一貫して行うことに特長があります。

これを材料の**内製化**と呼んでいます。

※**内製**=社内でつくること



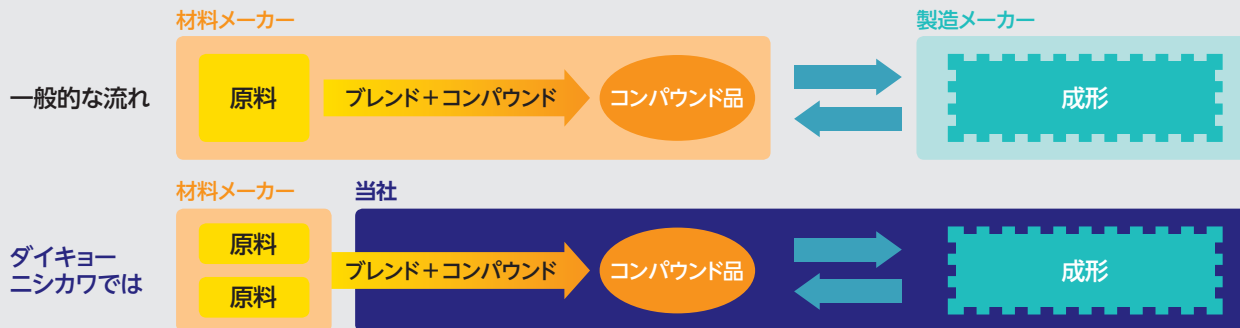
内製のメリットは3つあります。

1つめは、車の製品によって求められる性能が異なりますが、要求されるそれぞれの性能にあった材料をつくることができ、製品ごとに高性能な材料を開発することができます。

2つめは、短期間での材料開発が可能です。社内で材料をつくるので、開発期間のロスをなくし、必要に応じてタイムリーなものづくりが行えます。

3つめは、安価な原料をグローバルに調達することにより、低コストで材料開発を行うことが可能です。

社内で独自の材料開発を行うことは、ダイキョーニシカワの強みの一つです。



※ブレンド…混ぜ合わせること

※コンパウンド…練りこむこと



ダイキョーニシカワ 開発担当者に聞く



樹脂は何からできていますか？



主な原料は石油です。原油を蒸留し、沸点の違いを利用して石油ガス、ガソリン、ナフサ、灯油、軽油、重油、アスファルトに分けます。このナフサから樹脂は作られます。



樹脂にはどんな種類がありますか？



大きく分けると熱可塑性樹脂と熱硬化性樹脂の2種類に分けられます。

車の部品によく使われるポリプロピレンは熱可塑性樹脂で、柔軟で加工しやすいという特徴があります。一方、お風呂の浴槽などには、熱硬化性樹脂を使います。加熱すると硬化し、一度固まってしまうと再び加熱しても軟化溶解しないという性質を持っています。



同じ材料なのに、
どうして性質が違うものができるのですか？



料理に例えて考えてみましょう。使う食材は同じでも、加える調味料を変えれば全く違った料理になります。

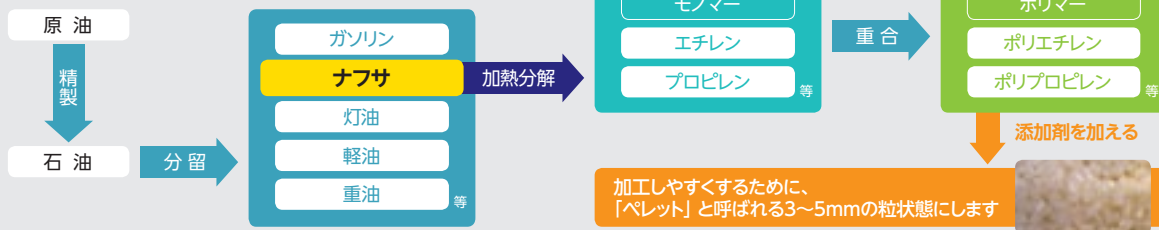
調理法によっても材料の性質は変わります。例えば煮込んだジャガイモはホクホクの食感になりますし、油で揚げれば表面はカリッとした食感が楽しめます。

カレーを作る場合、先に材料を油で炒めてから煮込む調理法もあれば、電子レンジで下ごしらえをする調理法もあります。

何時間煮込むか、どんなスパイスを何グラム加えるか、作り方や味付けは各家庭で違います。同じ「カレー」という料理でも、それぞれの家庭の「オリジナルレシピ」で、出来上がったカレーの味は変わるのです。

ダイキョーニシカワでも、適材適所の要求に応えるための「オリジナルレシピ」をたくさん持っています。

原油から樹脂ペレットができるまで



連結財務諸表

連結貸借対照表

(百万円)

科 目	第7期 2014年3月31日現在	第8期 2015年3月31日現在
資産の部		
1 流動資産	47,261	59,988
現金及び預金	20,708	20,842
受取手形及び売掛金	19,673	26,298
電子記録債権	511	3,628
商品及び製品	1,349	3,351
仕掛品	309	597
原材料及び貯蔵品	1,620	2,394
繰延税金資産	1,120	1,215
未収入金	429	430
その他	1,587	1,699
貸倒引当金	△ 49	△ 469
2 固定資産	51,373	55,564
有形固定資産	44,365	49,473
建物及び構築物(純額)	9,942	11,401
機械装置及び運搬具(純額)	10,232	13,184
工具、器具及び備品(純額)	1,146	2,166
土地	10,923	11,071
その他	12,120	11,648
無形固定資産	1,337	1,380
のれん	177	131
その他	1,160	1,249
投資その他の資産	5,670	4,710
投資有価証券	2,900	2,486
繰延税金資産	857	1,214
その他	1,912	1,009
資産合計	98,635	115,552

1 流動資産

受取手形及び売掛金の増加などにより、前期に比べ12,727百万円(26.9%)増加し、59,988百万円となりました。

2 固定資産

金型等のリース資産と機械装置の増加などにより、前期に比べ4,190百万円(8.2%)増加し、55,564百万円となりました。

科 目	第7期 2014年3月31日現在	第8期 2015年3月31日現在
負債の部		
3 流動負債	46,941	51,406
支払手形及び買掛金	24,556	28,081
短期借入金	5,561	4,423
1年内返済予定の長期借入金	1,668	3,094
リース債務	2,752	4,297
未払金	4,951	4,871
その他	7,450	6,638
4 固定負債	14,850	20,578
社債	1,000	1,000
長期借入金	7,320	10,966
リース債務	2,365	4,234
その他	4,165	4,378
負債合計	61,792	71,985
純資産の部		
株主資本	32,918	38,467
資本金	4,385	4,385
資本剰余金	9,795	9,795
利益剰余金	18,737	24,287
自己株式	—	△ 0
その他の包括利益累計額	2,732	3,562
その他有価証券評価差額金	630	737
為替換算調整勘定	1,969	2,833
退職給付に係る調整累計額	132	△ 8
少数株主持分	1,192	1,537
純資産合計	36,842	43,567
負債純資産合計	98,635	115,552

3 流動負債

未払法人税等が減少しましたが、支払手形及び買掛金の増加などにより、前期に比べ4,465百万円(9.5%)増加し、51,406百万円となりました。

4 固定負債

長期借入金の増加などにより前期に比べ5,727百万円(38.6%)増加し、20,578百万円となりました。

■ 連結損益計算書

(百万円)

科 目	第7期 2013年4月 1日から 2014年3月31日まで	第8期 2014年4月 1日から 2015年3月31日まで
5 売上高	108,523	134,343
売上原価	93,132	113,996
売上総利益	15,390	20,347
販売費及び一般管理費	7,457	7,993
営業利益	7,932	12,353
営業外収益	676	645
営業外費用	714	2,168
経常利益	7,895	10,831
特別利益	13	261
特別損失	298	319
税金等調整前当期純利益	7,610	10,772
法人税等合計	3,652	3,840
少数株主損益調整前当期純利益	3,958	6,931
少数株主損失(△)	△ 385	△ 3
当期純利益	4,343	6,935

5 売上高

主要販売先への売上増に加え、新製品を量産する国内子会社及びメキシコ子会社の売上寄与等により、前期に比べ25,820百万円(23.8%)増加の134,343百万円となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科 目	第7期 2013年4月 1日から 2014年3月31日まで	第8期 2014年4月 1日から 2015年3月31日まで
6 営業活動による キャッシュ・フロー	15,779	10,076
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 11,739	△ 16,146
財務活動による キャッシュ・フロー	1,104	5,378
現金及び現金同等物に 係る換算差額	446	603
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	5,591	△ 88
現金及び現金同等物の 期首残高	14,912	20,503
現金及び現金同等物の 期末残高	20,503	20,415

6 営業活動によるキャッシュ・フロー

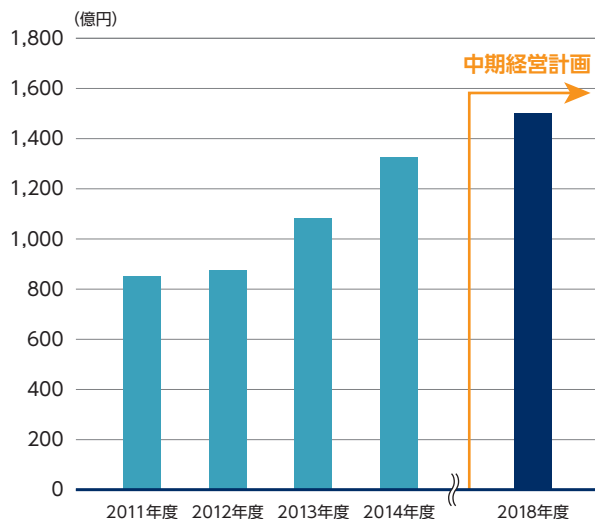
10,076百万円の収入(前期は15,779百万円の収入)となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益10,772百万円及び減価償却費7,871百万円の計上によるものです。

中期経営計画

当社は2015年度を初年度とする中期経営計画を新たに策定いたしました。
当社は事業環境の変化に迅速に対応し、世界4事業地域の基盤強化を図り、
グローバル企業としての成長を加速させる為、あらたな目標を掲げスタートします。

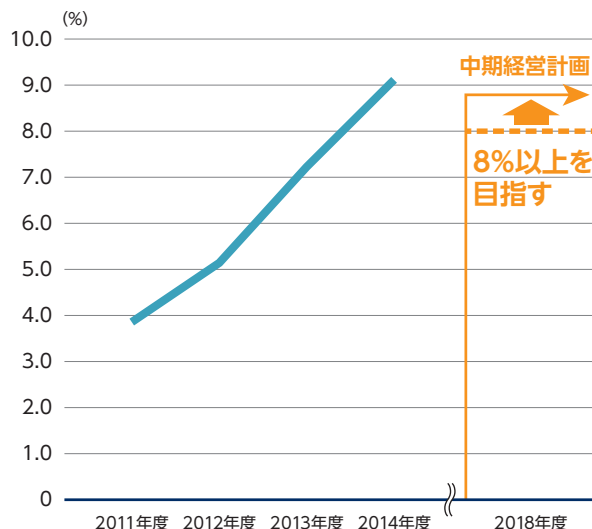
目標とする経営指標

■ 連結売上高



2018年度目標
連結売上高 **1,500**億円
(2014年度実績：1,343億円)

■ 売上高営業利益率



2018年度目標
売上高営業利益率 **8%以上**
(2014年度実績：9.2%)

基本戦略

- ① 世界4事業地域(日本、中国/韓国、アセアン、中米/北米)の成長基盤を造る
- ② 主要製品の受注を確保し、軽量樹脂製品で売上を拡大する
- ③ 高い品質保証力を持つグループ共通の生産方式を確立する
- ④ グローバル事業拡大に向けた経営力を強化する
- ⑤ グローバル人材の確保と人材育成を強化する

主要施策

事業展開面

- 樹脂製外板部品でブランドを確立し、国内外での事業拡大

技術・ 研究開発面

- 戦略製品でコスト競争力のある生産技術の確立
- 超短期開発に対応する技術力の向上
- 材料ブレンド開発及び次世代コックピットモジュールの開発

生産・ 管理面

- 国内外もの造り強化と水平展開
- グローバルで即戦力となる人材の確保と育成の強化

会社・株式データ

会社概要

社 名 ダイキョーニシカワ株式会社
本 社 広島県安芸郡坂町北新地一丁目4番31号
設 立 2007年4月1日
資 本 金 43億8,542万3,500円
従業員数 4,530名（連結）

（2015年3月31日現在）

役 員 代表取締役社長 内田 成 明
代表取締役副社長 数上 富美高
取締役相談役 岡 徹
取締役副社長執行役員 福島 茂 夫
取締役専務執行役員 横田 善 博
取締役専務執行役員 竹岡 健 次
取締役専務執行役員 松山 俊 夫

社外取締役 久保田 洋志
社外取締役 出原 正博
社外取締役 圓山 雅俊
常勤監査役 繁元 則彦
社外監査役 安村 和幸
社外監査役 廣 田 亨

（2015年6月26日現在）

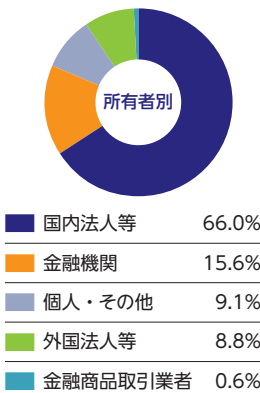
株式の状況

発行可能株式総数 59,176,000株
発行済株式の総数 18,094,100株
単 元 株 式 数 100株
株 主 数 3,030名

大株主

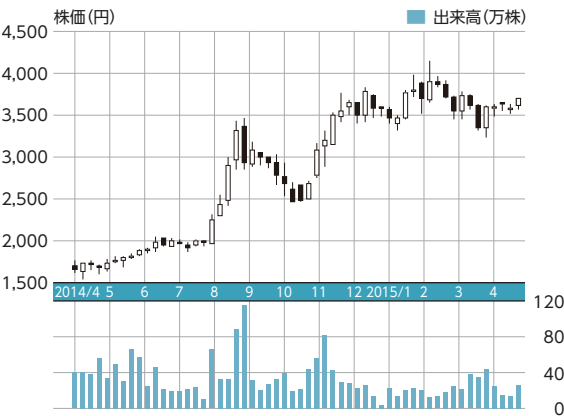
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
HCP -1号投資事業有限責任組合	3,438,890	19.0
西川ゴム工業株式会社	2,958,800	16.4
株式会社イノアックコーポレーション	981,150	5.4
三菱商事プラスチック株式会社	981,150	5.4
株式会社広島銀行	904,600	5.0
住友商事株式会社	893,420	4.9
三井物産株式会社	805,680	4.5
マツダ株式会社	739,700	4.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	569,300	3.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	406,600	2.2

株式分布状況



（2015年3月31日現在）

株価・出来高



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎事業年度終了後3ヵ月以内
剰余金の配当の基準日 期末配当3月31日 中間配当9月30日
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同事務取扱場所 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
0120-094-777（平日9：00～17：00）

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
公 告 掲 載 方 法 電子公告
<http://www.daikyonishikawa.co.jp/>
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。



ダイキョーニシカワ株式会社

TEL:082-885-9979



〈お知らせ〉ホームページを全面リニューアルいたしました

よりわかりやすく、ご利用いただきやすい情報提供を目指し、当社のホームページを2015年3月リニューアルいたしました。株主・投資家の皆様のお役に立つ情報をご覧いただけます。今後も内容の充実と幅広い情報の発信を図ってまいりますので、ぜひご利用ください。（アドレスの変更はございません。）

<http://www.daikyonishikawa.co.jp/>